

眼科医療の中で最大の成果！

「最小切開法」による白内障手術 Q & A

Q 「白内障」とは、どのような病気なのですか？

A 白内障は、水晶体（カメラのレンズに相当する部分）が濁つてしまい、眼がかすんで見えにくくなる病気です。白内障の原因の大半は、**白髪やシワと同様に加齢現象**であるため、薬を用いても何をしても根治することはできず、進行を少し遅らせる程度の効果しか望めません。このため、高齢化社会の現在、特に急増し**高齢者の視覚障害の第1位**を占めています。



Q 最新の「最小切開法」という手術法は、どのように白内障を根治するのですか？

A 最新の手術法として、わずか3ミリ程度の創口から、白内障を超音波で細かく分解して吸引除去する方法が目薬のように優しい局部麻酔のみで、短時間の内に行われるようになりました。同時にその小さな創口から、柔軟な最高品質の眼内レンズを小さく折りたたんで、眼内に挿入し、眼の中で開いて固定するという画期的な手術法が開発されています。これは、「**最小切開法**」と呼ばれる世界的にも優れた手術法です。「**最小切開法**」に利用される**最高品質の眼内レンズ**は、「**ソフトアクリル**」という柔軟な素材を生かして、ごく小さな切開創から挿入できる優れた機能を持っています。この為、白内障がまだ軟らかい適切な時期に手術を行えば、術中の痛みも無く、視力の回復も顕著で「**眼科医療の中で最大の成果**」とされています。



最新の最高品質眼内レンズ
小さな切開創から2つに折りたたんで、挿入可能で柔軟な最高品質の眼内レンズが開発されました。

Q 高齢者の生活にとっても大切な視力ですが、視力低下を放置した場合、どのような問題が生じますか？

A 現代社会では、情報の90%以上を眼から取り入れる言われています。そのために必要な視力は、テレビ・新聞を快適に見るためには、0.5以上を要します。また、運転するには、0.7以上の視力が必要です。しかし残念ながら、特にご年配の方では、眼がほとんど見えなくなるまでじつと我慢し、いよいよ難治の状態となつてようやく受診される例が非常に多いのが悲しい現実なのです。

このような場合、白内障と同時に高齢者に急増している緑内障や眼底出血などの余病も併発して、手遅れとなり、回復しない例も少なくありません。

このため、視力低下に気付いたら、**自己判断でいたすらに放置せず、出来るだけ早く眼科医を受診し、白内障の状態や他の余病の有無について診察を受ける**ことが賢明です。

News Topic



より高精度の白内障手術のために
眼内レンズ度数測定機器
「IOLマスター」を導入！

最新の白内障手術の際には、白内障を根治して治療するだけでなく、同時に患者様がもっている遠視や近視も軽くして治すことが出来るようになりました。

その秘訣は、最新の白内障手術のための、より正確な高精度の眼内レンズ度数測定機器の導入です。当院では、ドイツ・ツァイス社製の「IOLマスター」という機器を導入しています。

この最新機器の導入により、より正確な高精度の眼内レンズの度数測定が可能となり、手術後の患者様の遠視や近視を軽くして、少しでも明るく快適な老後の生活のお役に立てるよう図らせていただいております。

白内障手術についての解り易い解説資料もございますので、ご希望の方は、ご遠慮なくスタッフにお申し付けください。